

▲▽海の道▲▽ 八幡浜～別府航路⑥

れいめい丸に乗船 八幡浜港～別府港

■「れいめい丸」に乗り組む皆さんのコメント

・村上顕駿三 航士

趣味は釣りで、フィールドは海・ダム・川など全般です。大分の溪流釣りなら大野川の上流が狙い目です。最近はウグイやブラックバスを釣りました。

・山下英人 一航士

趣味は釣りやキャンプ。アウトドア全般ですね。ゴールデンウィークも家族サービスでした。子どもたちと海や川で過ごすのが楽しいです。

・中塚篤志 甲板手

趣味は海釣りです。最近ルアーでハマチを釣りました。休日は、家族サービスや家事手伝いで過ごすことが多いです。

■船内でのカタフリ

「れいめい丸」の皆さんにお話を伺い、いろいろな人が乗り組んでいる船だなと感じました。指導者的立場にいる坂本船長や住田機関長は、人それぞれの現状を把握し、個の能力を伸ばすための教育も兼ね、後輩を育てていくのだろうと、感心しました。「名は船を表す」新しい船で船員教育の黎明期が始まる予感がしました。

■佐田岬半島 日本列島で最も細長い半島 長く突き出て瀬戸内海と宇和海を分ける

瀬戸内海の平均水深は約38mと比較的浅く、島が少なく潮流が穏やかな海域と、島が密集した潮流の速い海域が交互に並んでいる。この瀬戸内海と宇和海を隔てているのが、佐田岬半島。四国最西端に位置する半島で長さは約40km。半島内に大きな川はなく、平地は極めて少ない。この地形の形成には、日本列島の成り立ちと四国山地が関係している。佐田岬半島に平地が少ないのは、現在地上に出ている部分が山の尾根だったため、宇和海の海岸は礫や砂礫海岸が多く、水深は60m以上。山地の尾根や谷に海水が侵入して海岸線を形成しているため、遠浅の瀬戸内海とは異なり、海岸近くでもすぐに水深が深くなるのが特徴。宇和海は太平洋から暖流である黒潮が流れ込むため海水温が高く、温帯性・亜熱帯性・熱帯性のさまざまな生物が分布する。

また、由良半島から愛南町にかけて分布する海岸生物は県の天然記念物に指定されており、由良沿岸にはサンゴ類や亜熱帯魚類が生息している。